



観音寺市議選は、市長選挙と同時に（11月9日告示16日投票）でたたかわれ、定数は前回から2減の18となりまず。

日本共産党からは現職のふじた均（ひとし）議員が

観音寺市議選挙が目前 ふじた均市議 市政に再び 白川参院議員が応援

再選に挑戦します。

日本共産党の白川容子参院議員は18日、観音寺市で11月の同市議選の勝利をめざして開かれた決起集会に駆け付けました。

白川氏は先の参院選で自公を衆議院に続いて少数与党に追い込んだ一方極右・排外主義の政党が伸び、「反動ブロック」がつくられる危険が生まれているとし、「国民的な反撃を進めていく。その反撃の第一歩が観音寺市の市議選だ。反撃のトッパッターとして市政に再び送り出してほしい」と呼びかけました。

ふじた氏は「国政、県

民主香川

定価 月 100円
発行所
民主香川社
高松市藤塚町
3丁目13-14
☎(087)834-7311

護衛艦「いなづま」入港に抗議 県民連絡会が抗議行動

「3面から」 自衛隊募集の拡大、米軍をはじめとする他国軍との合同訓練の動きを指摘し「軍事対軍事では、平和になりません。今こそ、違憲の安保法制の廃止の声を大きく広げていきましょう」と呼びかけました。

その他に社民党香川県連合の三野ハル子代表、香川平和労働会議の豊田雅人議長がリレートークをしました。



9月26日、「郷土かがわを戦場にするな！」県民連絡会は、高松サンポート岸壁にて、護衛艦「いなづま」の高松港、入港反対！抗議行動を行いました。

2024年3月末、池田豊人香川県知事は県議会にもはからずに、国による高松港の「特定利用港湾」指定を受け入れました。それ以降、ひんぱんに海上自衛隊の艦船が高松港に入港し一般公開されています。

「有事」にそなえて高松港での演習であり、市民への浸透を狙ったものです。

県民連絡会の共同代表で内科医師の藤原高明氏、県商工団体連合会事務局長の野崎孝司氏、8・15戦争体

これからの社会保障を考える 高齢化、人口減少 そして「大軍拡」の流れの中で 27

社会保障のあり方について考える会 準備会 藤井 明

20世紀と言う枠組みで「社会保障」を考える ②

20世紀の「民主主義と人権の発展」の最たるものは19世紀までメインであった国民主権と自由権に加えて、「生存権」をその基本とする「社会権」の概念が成立したことです。その背景には、働く者の要求と運動、そして、第2次世界大戦で民主主義がファシズムに勝利したことがありました。

「社会権」とは、基本的人権のうち、国家によって人間らしい生活を保障させる権利を指します。19世紀までの近代民主主義は、人間はすべて自由・平等と言いながら、資本家の「財産権」「搾取の自由」が権利とされていたために、失業・貧困・疾病などは個人の問

題とされ、企業や政府に生活の保障を求めるのは筋違いとみなす、と言う限界を内包していました。「社会権」はこの限界を克服するものであり、民主主義と人権を発展させる推進力となった労働者階級を中心とする人民のたたかいによってもたらされたものでした。現代の人権は、政治的自由や精神的な自由などの「自由権」と、このような「社会権」との結合によって成り立っているのです。

国民主権、基本的人権の尊重、平和主義の3つの理念を原理とする「日本国憲法」もまた、こうした民主主義と人権の世界史的発展の到達点と成果とを直接に受け継ぐものです。しかも憲法における「社会権」は、第25条の「生存権」、第

26条の「教育を受ける権利」、第27条の「勤労の権利」、第28条の「労働基本権」などで構成され、第25条の文化的生存権を前提としつつ、

- ・第27条の「勤労権」で賃金・労働条件の最低基準などの働くルールを保障して労働基準法や最低賃金法などに具体化することにも、
- ・第28条の「労働基本権」の活用によって最低基準以上の労働条件を労働協約として獲得すべきことを呼びかけ、更にそれを労働組合法や労働関係調整法などに具体化する、……と言う構造になっています。

これほど明確で具体的に「社会権」を明記している憲法は他にあまり例を見ない、と言う点で、私たちの国の憲法は、世界に誇るべき先駆的な憲法と言えるでしょう。



政、市政、白川さんとともに一体となつて市民の暮らし、営業を守るたたかいにこれからも取り組みたい」と決意を述べました。

中谷浩一県委員長は、ふじた市議の3つの値打ちを報告。第一に、要求を実現する議席だとして、高校卒業までの子どもの医療費無料化を実現するなど市民の願いの実現に全力をあげてきたので、さらに国保税の値下げ、学校給食費の無償化、補聴器の購入補助をもとめていると紹介。とくに飲み水の危険については、浄水場からPFAS（ピーファス）健康に害を与える物質）が検出された問題にいち早く取り組み市と県へ調査を要望しました。



第二に、市政をきびしくチェックする議席として、市が、中四国最大の「道の駅」作りをすすめていることに当初から問題ありと提起してきたのがふじた市議だ」と紹介。

道の駅は、87億円の税金を投入する予定であり、そのうちの19億円は観音寺市民の税金です。ところが市は、計画の全体像をはっきりと示さず、採算ラインとして年間85万人の利用客を予測。しかし高松市の栗林公園でさえ年間50万人の利

用客であり、本当に採算が取れるのか、赤字になると市民の税金が無駄になり、負担増が心配されます。ふじた市議の指摘は、当初賛成していた同僚議員にも共感を広げ、いまでは7人が反対を表明しています。

第三に、国政、県政と結んで平和と子どもを守る議席だとして、戦争する国づくりが香川でもどんどん進められており、子どもの名簿が自衛隊へ勝手に渡されたりしています。これに抗議してがんばっているのはふじた市議だけ。【2面に

暑台教太

暑い高松から逃れて北海道を旅しました。美瑛の就実（しゅうじつ）の丘に行くとき遠くの山並み、大きく広がる真っ青な空、その下には広大なパッチワークのような畑が広がるのを東西南北、見晴らすことができ、感動しました。

看板を見ると、明治33年、香川県から3名がこの地に入植したのが始まりと書いていました。農地を求めて、遠く旭川の地まで何日もかけてたどり着き、生きるために人力で原野の木を切り、根を掘り起こし、開墾した当時の人々の困難は想像を絶するものであったでしょう。

北海道は明治以降、多くの移住者が開墾し、その努力のたまものであると感じると同時に、それまで住んでいたアイヌの人々のことを思わずにいられません。和人たちに強制移住をさせられたり、伝統的なアイヌ文化の風習の禁止、日本語の習得が勧められるなどの同化政策により、苦しい生活を余儀なくされました。「アイヌ施策推進法」がやっと2019年に施行され、差別禁止が明記されました。（こ）